

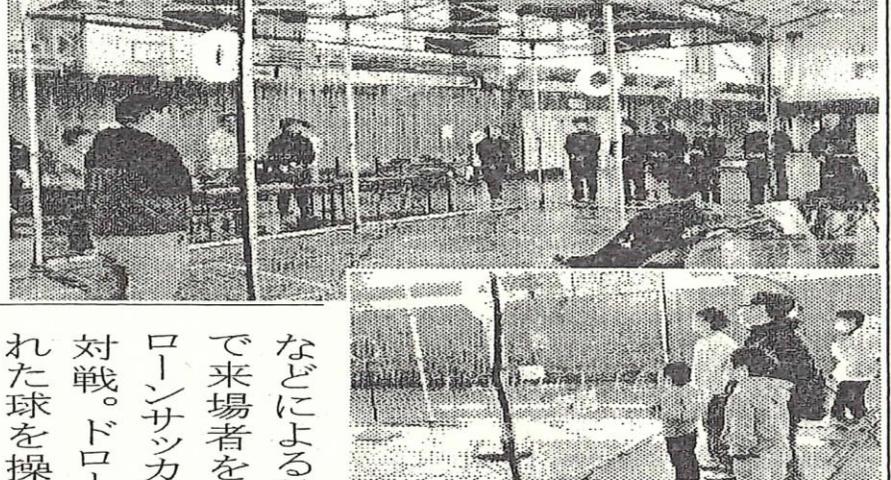


報道で紹介された美瑛高校 31

◆令和6年11月23日(R6. 11.30 びえい新聞)

11月23日に「美瑛高校第2回ドローンフェスティバル」が開催されました。第1回目と比べても町内外の方々をはじめ多くの方々にご来場いただきました。本校のドローンを活用した取組が注目を集めています。

ドローンサッカーの対戦に来場者が熱視線 美瑛高ドローンフェスティバル大好評



ドローンの操縦体験に子どもも大人も熱中。11月23日に美瑛高校体育館で開かれた「第2回ドローンフェスティバル」には、町内の小学生をはじめ幅広い年代の多くの人々が来場、ドローンサッカーの対戦でも盛り上がった。会場には2つのドローンサッカー

のコートが設置。美瑛高校の生徒や拓殖大学北海道短期大学ドローンサッカー部、ドローン関連企業のチームなどによる熱の入った対戦で来場者を楽しませた。ドローンサッカーは5人1組で対戦。ドローンが組み込まれた球を操作しリング状の相手ゴールを通過させれば点数となる。ディフェンスとオフENSEの役割もあり、コート内を飛び回るドローンの操作テクニックで、来場者の興味を惹き付けていた。

別のコートではドローンサッカーの操縦体験もあり、子どもから大人まで熱中。小

学生でもすぐにコツをつかみコントローラーに集中。ドローンの動きを目で追いながら操縦を楽しんでいた。ほかにも産業用など様々なドローンが展示。美瑛高校では、2025年度からドローン授業を導入、二等無人航空機操縦士の国家資格の取得を目指すことから、ドローンの理解を広げようとフェスティバルを開催。ドローンサッカーの用具一式が配備されたこともあり、今後は小中学生向けのドローンサッカー教室なども予定している。農業や林業、観光業、建設業をはじめ様々な産業でドローンが活用、新たなドローンビジネスの可能性も広がっているだけに、ドローン教育はまさに注目のアイテム。美瑛

高校では先を見据えた独自のアイデアのもと、将来に向けた生徒達の成長をサポートしている。